

私のひとりごと

手作りのお花畑「はながさの丘」徳良湖畔

代表 押切尚美(宮沢地区)

今、あるものを活かす
今、やるべきことを頑張る



しゃくやく畑(徳良湖) 6月19日撮影

尾花沢には、尾花沢にしかないものがいっぱいあると思います。風景・人材・資源などなど、まさかその素材をどう活かすかが課題であり問題でもあります。今、はながさの丘は、徳良湖の花畑としていろいろな方々と出会えています。その出会いをどう活かして、どう維持していくかが課題となっています。頭で考えても思いつくことはいないので、やれること、やるべきことから一つ一つクリアして、その体験から次のことを考え、行動に移すことだと思っています。日々忙しい毎日でも、過ごしている方々に、ちよつとでもホッとできる場所をつくり、出会えた皆さんが少しでも笑顔が増えたら嬉しいなと思っています。

はながさの丘も、尾花沢の良い素材になれるようがんばります。

議

会

目

誌

4月

4日 市内小中学校入学式、保育園・幼稚園入園式(～6日)

春の交通安全県民運動出発式

6日 福原小学校開校式・入学式

7日 婦人防火協力班連絡協議会定例総会

16日 太田渉子選手報告会

24日 産業建設常任委員会

25日 総務文教・市民厚生常任委員会

26日 エネルギー関連設備完成式典

27日 春季消防大演習

28日 議会運営委員会・全員協議会

環境衛生事業組合衛生常任委員会

30日 第2回庁舎建設検討委員会

5月

8日 議会運営委員会

環境衛生事業組合5月臨時会

15日 全員協議会

21日 重要事業要望活動(県関係)

23日 第3回庁舎建設検討委員会(湯沢市庁舎視察)

山形新幹線延伸早期実現期成同盟会役員会及び総会

25日 社会福祉法人尾花沢福祉会理事會

26日 産業建設常任委員会

27日 市民厚生常任委員会

31日 第2回千年希望の丘植樹祭2014(右沼市)

6月

2日 議会運営委員会・全員協議会

北村山地域開発推進協議会総会

5日 重要事業要望活動(東北地方整備局、東北農政局)

10日 6月定例会(～17日)

20日 環境衛生事業組合全員協議会

26日 重要事業要望活動(国関係)(～27日)

第4回庁舎建設検討委員会

29日 おばね絆駅伝大会

発行/山形県尾花沢市議会 編集/市議会だより編集委員会

人のうごき

表彰

全国市議会議長会から、市政の振興に努められた功績により表彰されました。

◎議員在職15年以上

須貝 孝 議員

◎全国議長会評議員功労

鈴木 敏正 議員

菅根 光雄 議員

あ と が き

一般質問は、市民の皆さんの声を痛いほど感じながら、それぞれが熱い思いと信念を持って行います。1時間、目いっぱい使っているのに、紙面では半ページに収めなければならず、苦心惨憺(さんたん)します。議会は、これからも市政の両輪として機能を果たしていきます。(星川 睦子)

市議会だより編集委員

◎塩原未知子

◎青野 隆一

菅野 修一

五十嵐佳満

大類 好彦

武田 佳久

星川 睦子

◎委員長

◎副委員長

おばなざわ市議会だより 82号

平成26年7月15日発行



6月9日撮影：福原小学校5年生の田植え風景

6月定例会

- 補正予算・議案の審議…………… 2
- 尾花沢の雪と水を考える…………… 3
- 一般質問…………… 4
- 私のひとこと…………… 8

福原ふるさと塾田んぼアート(旧名木沢小学校うら)



市のホームページから 市議会インターネット中継・録画も見てください!

6月定例会 平成26年度 一般会計補正予算・議案の審議

平成26年6月定例会が6月10日開会し、一般会計補正予算や市路線バス運行に関する条例の一部改正などの議案が一括上程され、専決処分6件を承認するとともに、14議案を原案通り可決して17日閉会した。

補正予算の審議

Q 平成25年度の除排雪経費の総額はいくらか。また、苦情などの状況はどうか。

A 除雪経費は、3億3千686万円、排雪経費2億954万円で総額5億4千640万円となり、平成24年度に匹敵する額となった。理由として労務単価や燃料の高騰などで経費が2割ほど上昇したからである。

苦情は、過去3年に比較し、格段に少なかった。これは新鶴子ダムの冬期放流が毎秒約4トンに増えたため、流雪溝の水量も増加し、支障なく雪を流すことができたからである。

Q 徳良湖周辺の民有地の土地購入について、市は実勢価格より高い価格で買おうとしているのではないかとまた土地鑑定評価を行う理由は何か。

A 市が関わったこの地域の土地売買は平成13年が最後であれから13年も経過した中で売買事例も変わって

きている。土地の鑑定評価の必要性を認め予算を計上したところである。

Q 戦略的園芸産地拡大支援事業費補助金50万円の内容は何か。

A 県単独事業で地域の園芸産地をリードし、戦略的拡大を図る3戸以上の経営体とのことで、この度福原地区3戸の農業者がストックの栽培生産拡大を目指し、パイプハウス10棟を設置する事業に支援するものである。

議案の審議

Q 長根山クロカンコース整備に用いる圧雪車が購入されることとなったが、これまでの圧雪車との違いや利用拡大について伺いたい。

A これまでの圧雪車は平成8年に購入したもので、老朽化し交換部品もなく、故障も度々ありコース整備に大変苦慮していた。尾花沢クロカンや玉野スパス、福原スパスなどが練習に利

用している。今度は尾花沢スポーツクラブとタイアップして、スノーフェスタなどに雪遊び親しむ企画などにも活用していきたい。

Q 圧雪車購入の指名競争入札と契約名義が部長名で申請されているが、代表取締役でないのか。また、この入札で最低制限価格がない理由は何か。

A 今回の件について、入札と契約に関することが部長に委任されていることと物品購入は、最低制限価格を設定しなくてもよいとされている。

請願の審議

「特定秘密保護法の廃止を求める意見書提出を求める請願」は3月定例会からの継続審査であり、引き続き本定例会においても所管する総務文教常任委員会でも審査された。

わが国の安全保障を確保するため、防衛、外交、スパイ行為の防止、テロリズムの防止に限って特定秘密に指定する法律であり、法案を容認する旨の反対意見と、戦前の言論を統制し、言論の自由を奪って軍国主義に走り、太平洋戦争に突

入していった歴史的過ちを繰り返さないためにも、憲法で保障する言論の自由を守るため意見書提出に賛成する趣旨の意見などが出され、採決の結果、賛成少数で不採択された。最終日の本会議でも意見書提出賛成意見が出されたが、採決の結果、賛成少数で不採択となった。

採択された請願

◎平成26年請願第3号
手話言語法制定を求める意見書の提出に関する請願
一般社団法人山形県聴覚障害者協会
会長 小野 善邦

不採択となった請願

◎平成26年請願第4号
一級河川「沢の川」改修工事の整備促進に関する請願
中島区長 三浦 平右衛門

不採択となった請願

◎平成26年請願第1号
特定秘密保護法の廃止を求める意見書提出を求める請願
北村山地区平和センター 議長 結城 正

平成26年6月定例会賛否状況 (賛否の分かれた議案のみ掲載、他は全会一致)

議案番号	案件名	表決の結果	議員															
			小関英子	星川睦子	塩原未知子	石塚ミツ子	青野隆一	奥山格	五十嵐佳満	菅野修一	武田佳久	大類好彦	須貝孝	伊藤精一	鈴木敏正	加藤克彦	菅根光雄	大類準一
議第37号	尾花沢市税条例の一部を改正する条例の制定について	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
平成26年度請願第1号 (平成26年3月定例会継続審査)	特定秘密保護法の廃止を求める意見書提出を求める請願	不採択	×	×	×	○	○	○	×	×	×	×	○	×	×	○	○	

特集 尾花沢の雪と水を考える

尾花沢市における過去50年間の平均最大積雪深は、163cmです。しかし、(表1)のとおり、昭和59年〜平成5年までの10年間の117cmに比べて、最近では192cmと2倍近い積雪深となっています。10年間ごとの150cm以下の回数も2回と少なくなっており、必ずしも、暖冬になれば、雪が少なくなることはないえません。将来のことは誰にもわかりませんが、人口減少に加えた少子高齢化の急速な進行を考えると、雪対策こそが尾花沢市の最重要課題であることは間違いありません。

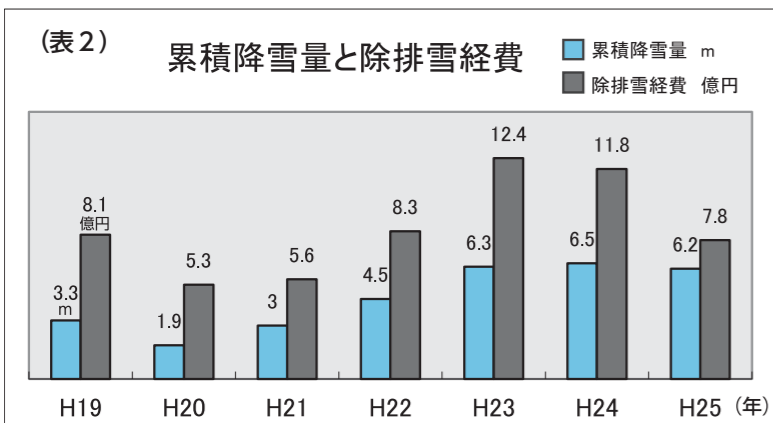
増える降雪量

厳しい財政負担

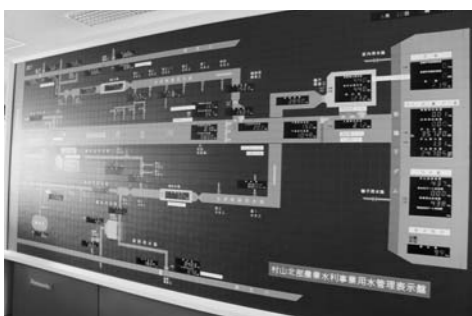
雪が欠かせません。尾花沢市では、(表2)のとおり、降雪量に比例して膨大な経費がかかります。重い財政負担となつていきます。毎年国からの普通交付税算入額としては2億円程度で、不足分は一般財源や特別交付税に頼らなければなりません。

過去50年間の積雪状況 (表1)

期間	平均最大積雪深	150cm以下
S39年〜S48年	164.9cm	4回
S49年〜S58年	166.9cm	4回
S59年〜H5年	116.8cm	7回
H6年〜H15年	157.5cm	6回
H16年〜H25年	192.3cm	2回



市民の生活の場に新鶴子ダムの水利用を!!



村山北部農業水利事業用水管理表示板

流雪用のダム水利用

新鶴子ダムの完成後これまでの間、論議されてきたことの多くは、冬期の水利用・流雪用水としての利用ができないのか、という市民の要望の声、並びに議会などで多くの議論が出されてきました。

●新鶴子ダムは農業専用として建設されたダムであり冬期の水利用としては許可を得ていないダムです。

●冬期の水利用・流雪用として利用するための調査と検証がされ確認できるデータが必要とされています。

驚きの成果

25年度の実績

これまで市と議会は議論を重ねてきた結果、昨年12月から3月までダムから、毎秒約4トンの水を放流することができました。

これが予想以上の成果で、今年の流雪溝利用地区からの雪つまりりによる水上がり及び苦情はほとんどなかった状況でした。

今後の対策

これまでの調査・検証をもとに農政局及び関係機関との協議を進め、安定した水の供給を1日も早く図り、市民に安心安全な冬の暮らしに向け、市と議会は国に強く働きかけていく責務があります。



豊水を抱える最良のダム

市役所庁舎新設の進捗状況を質す



塩原末知子議員

Q 庁舎建設検討委員会の進捗状況と今後の予定はどうか。

A 新庁舎の建設場所規模、概算事業費などについて検討している。また、現状と課題を踏まえながら新庁舎の必要性、あるべき姿について多くのご意見をいただいた。今後の予定は、6月中旬に4回目の検討委員会を開催し、平成27年度までに設計業務を完了させ、平成28年度から2ヶ年で本體工事を行い、平成30年度の開庁を目指している。

Q 大正ロマン漂う銀山温泉の風景が脚光を浴びているが、国指定

史跡である延沢銀山遺跡の山神社が著しく傷んでいる。早急に修復する必要があると考えるがどうか。

A 平成19年度に、銀山温泉組合より、山神社の屋根の破損が進んでいるとの連絡を受け、急遽、応急的な処置をした経過がある。修復については、関係者の協力を得ながら検討していきたいと考えている。

Q 四大まつりは、スタッフに占める市職員の割合が多く、本来であれば市民主体であるべき実行委員会の会長が市長であるために、予算や役員選出の面で行政主体になっていると感じている。今後の運営体制、事務局体制のあり方について伺いたい。

A 市民が主体となり、



銀山温泉山神社

企画、準備、運営にあたるのが本来のまつりの姿と考えており、まつり実行委員会や関係団体との話し合いを行っていききたい。

Q 今年度から「花笠YOSAKOIまつり」が開催されないこととなった経緯について伺う。

A 参加団体は、平成19年度の34団体をピークに減少傾向になってきている。本市のYOSAKOI団体も会員数が減少し、実行委員会としての負担も増してきたことなども踏まえ、昨年度の13回目の開催を最後に幕を閉じた。

高齢者が共同で生活できる住宅の建設を図れ



加藤 克彦議員

Q 高齢者などの生活に配慮したバリアフリー化された住宅シルバーハウジング施設の建設を図ってはどうか。

A シルバーハウジング・プロジェクト事業は、高齢者が自立して安心かつ快適な生活を営むことができるよう生活援助員を派遣して、入居者の生活相談や緊急時の安否確認などの日常生活支援を行う事業で、公営住宅分野と福祉分野の連携が必要不可欠である。民間活力を期待しながら、本市にあった高齢者向け住宅環境について、シルバーハウジングも含め、庁内関係

課で調査・検討をしていきたい。

Q 流雪溝の用水確保の観点から、廃止堰栗生地区の重兵衛堰の整備を準用河川に指定し、県の事業で整備促進を図ってはどうか。

A 農業用水路である重兵衛堰は導水路として利用し銀山川から取水している。流雪溝整備の条件として、消流雪用水としての水利権を取得する必要などから、必要なデータを得るため、平成23年12月より毎年12月から3月までの期間、試験通水を行い、適切な取水量と取水期間の検証を行っている。

Q 福原工業団地3期造成2.6haの早期整備



福原工業団地

と、トヨタ自動車東北系列企業の誘致の環境整備として4期造成15haを計画してはどうか。

A 未分譲地の一部の用地については、用地幅が違う不整形な区画となっており、分譲するには、きちんと形状を整える必要があると考えている。また、分譲予定地の2.6haは、用地も未買収であることから、今後、拡張に向け内部で検討を進めていきたい。

また、その後の拡張については、本市の農村地域工業等導入実施計画の変更を伴うものであり、今後検討していきたい。

「病児・病後児保育」への取り組みを



小関 英子議員

Q 「病児・病後児保育」の実施に市民からの要望はあるか。また今後「病児・病後児保育」に取り組む予定があるか。

A 病気治療中の児童を預かることから、児童の病態の変化に適切に対応できるよう、医療機関と連携が不可欠であり、さらに看護師の配置、あるいは専用保育室の設置など、現段階では条件整備にさまざまな課題がある。今後、子育て世代の方々のニーズを把握した上で、対応を検討していきたい。

Q 小中連携学力向上で、子供の心を育む読書運動「読育」の現在の取り組みと今後の推進についてはどうか。

A 四まつりは、スタッフに占める市職員の割合が多く、本来であれば市民主体であるべき実行委員会の会長が市長であるために、予算や役員選出の面で行政主体になっていると感じている。今後の運営体制、事務局体制のあり方について伺いたい。

A すこやか検診については、毎年48%ほどで横ばいで、県平均より5.8%高い受診率である。前立線がん検査の助成については、県内の状況を調査し、検討していきたい。眼科検診は、専門医の確保が必要など導入は難しい状況にある。今後とも健康相談や各地区での出前講座などで受診勧奨を呼びかけるとともに、地区保健委員との連携を強化しながら受診率向上に努めていく。

Q 朝読書や多読賞表彰などは全小中学校で、親子読書や地域ボランティアの読み聞かせなどは全小学校で実施している。また、学習情報センター「悠美館」との連携で、BM車の活用や、授業で同一作家の作品をまとめて借りるなど、協力とアドバ



A 朝読書や多読賞表彰などは全小中学校で、親子読書や地域ボランティアの読み聞かせなどは全小学校で実施している。また、学習情報センター「悠美館」との連携で、BM車の活用や、授業で同一作家の作品をまとめて借りるなど、協力とアドバ

区長など特別職の報酬を見直す考えはないか



青野 隆一議員

Q 花笠ニュータウンに続く、雪対策を講じた格安の住宅団地造成が急務ではないか。

A 定住対策として、居住空間無雪化を取り入れた、格安な分譲住宅の必要性については十分認識している。今後、花笠ニュータウンの事例も踏まえ、流雪溝整備や堆雪場を確保するとともに、1区画の面積を広くとるなど、雪対策を考慮した住宅団地の造成について、庁内関係課で検討していきたい。

Q 職務が増大する区長や北村山で最低位にある交通安全指導員などの報酬を引き上げる

Q 区長報酬は、近隣市と比較しても本市は低い水準にはなく、現在のところ見直しの予定はない。交通安全指導員などの他の特別職の報酬については、他市町の状況を調査し、適正な見直しを図りたい。

Q 保健師などの専門職は、学校などを訪問して応募要請をしていく考えはないか。

A 優秀な人材の確保を目的にインターンシップ制度を有効に活用して、大学、短大生の受け入れを行っているが、今後は学校訪問など積極的な募集活動も行いたい。

Q 消防団員の確保が厳しい中、積極的に軽積載車の導入を図ってはどうか。



寄贈された初の軽積載車

縮と、狭隘道路の多い林野火災などでの消防力の向上が図られると期待される。各地区の資機材のバランスと機動力を考慮しながら検討したい。

Q トイレ改良工事と浄化槽設置工事は一体とみなし、リフォーム補助金の対象外とするのは法令違反で、すぐ見直すべきではないか。

A 住宅リフォーム補助は、交付決定後の着工要件があり、遡及交付はできないこと。さらに、トイレ分も補助の対象とすれば、申請件数が大幅に増え、要望どおりの財源確保が難しいと考えられる。今後早急に内部調整を図りたい。

農政改革への取り組みは いかに



菅野 修一議員

Q 国は農政の大きな改革を発表した。その取り組みについて伺う。

①農地中間管理機構の設置と果たす役割は。
②水田フル活用と米政策の見直しへの対応は。
③日本型直接支払制度が適用される地域組織の拡充対策と事務の簡素化について。

A ①農地中間管理機構は、農地の借り受け担い手への貸付け、農地集積を加速させることにより、生産性向上を目的としている。市では、農業再生協議会で受託する準備を進め、体制整備と制度の周知方法など十分検討して推進する。

②直接支払交付金における産地交付の必須要件となっていて、現在策定中である。

③25年度末で31集落16組織が活動している。約4割であり、さらに今年度中の設立を目指して、積極的に進めていく。事務軽減に向けては、様式の簡素化などを図り、研修会を開催するなど努めている。

Q 国が進めている「バイオマス産産都市」の選定に応募してはどうか。森林面積が7割を占める本市にとって、雇用拡大や産業振興にもつながるバイオマス産産都市は、千載一遇の好機ではないか。

A 応募にあたっては、「産業化を目指す構想」を作成し、計画を提出しなければならぬが、構想作成段階に至っておらず、応募は困難である。

Q 国が進めている「バイオマス産産都市」の選定に応募してはどうか。森林面積が7割を占める本市にとって、雇用拡大や産業振興にもつながるバイオマス産産都市は、千載一遇の好機ではないか。

A 応募にあたっては、「産業化を目指す構想」を作成し、計画を提出しなければならぬが、構想作成段階に至っておらず、応募は困難である。



尾花沢産の原料を使った酒類

ある。利用可能な資源量の把握や事業の採算性など現状と課題を明らかにして、新エネルギー推進会議の助言を受けて検討する。

Q 本市の優れた農産品を原材料とした幻酒翁山や稲穂の光など、またすいか酒、すいかワイン、さらには山ぶどうワインなどの本市内産原料のお酒で乾杯を行う尾花沢市乾杯条例を設定してはどうか。

A 米、スイカ、そば、山ぶどうなどの需要拡大と地域ブランド化を推進するうえで、市を挙げて消費拡大や情報発信に取り組みしていきたい。

Q 米、スイカ、そば、山ぶどうなどの需要拡大と地域ブランド化を推進するうえで、市を挙げて消費拡大や情報発信に取り組みしていきたい。

若者の定住する まちづくりを



大類 準一議員

Q 子育て支援策として保育料の負担軽減を行ってはどうか。

A 平成27年度より「子ども・子育て支援法」に基づき、保育料についても大幅な見直しを図られるため、新制度の内容を踏まえたうえで検討する。

Q 若者向け住宅をさらに整備してはどうか。

A 市営住宅は12戸、福原よつば住宅は1戸空いており、募集の準備をしている。今後の建設については、応募状況などを考慮しながら検討する。

Q 農業をめざす若者に対し、支援措置を充実し、積極的に取り組んでほしい。

A 昨年10月の調査では、在宅で待機している方は63名、そのうち要介護3以上の方は34名である。

んでほしいか。

A 6月に「新規就業対策協議会」を立ち上げた。また、市単独事業として「元気農業支援事業」を新設し、将来の農業を担う若者へ支援していく。

Q 若者の雇用拡大を図る施策をどのように進めるか。

A 地元企業への就職希望者を増やそうと、中高生の企業体験や企業訪問などを計画している。また、企業対策専門員を配置し、既存企業の支援活動や、情報収集に努めている。今後、企業誘致につなげていきたい。

Q 特別養護老人ホームの待機者の状況はどうか。

A 昨年10月の調査では、在宅で待機している方は63名、そのうち要介護3以上の方は34名である。

Q 特別養護老人ホームの待機者の状況はどうか。

A 昨年10月の調査では、在宅で待機している方は63名、そのうち要介護3以上の方は34名である。



よつば住宅

Q 介護保険制度見直しによってこれまでのサービスが受けられなくなるなどの問題がある。地域や世帯の事情を踏まえたサービスをどう図るか。

A 要介護3以上の方しか、特老入所できないが、現在入所中の方は要介護2以下になっても状況により継続することができると、介護保険料や利用料金が改訂されると、年金生活者にとって不安な声がかかる。どのように対処するか。

A これまでの6段階から9段階に見直す案が示されているが、保険者の判断による弾力的な運用を可能としている。

介護保険利用枠の 縮小を許さない



石塚ミツ子議員

Q 法改正により要支援1と2の方のホームヘルパーとデイサービスが、今まで同様に使えなくなるのではないのか。そうならないための市の対応はどのようなか。また、介護保険の給付事業でなくなれば利用料金はどうなるのか。

A 新たな制度では、市が事業主体になり、単価も市が独自に設定していくことになる。現状を極力維持するよう努めていきたい。

Q 介護予防事業の縮小によって介護度が高くなるのが心配になる。市の対策はどうするか。

A 教育は百年の大計と考えている。教育委員会と連携して、諸課題に対し迅速に対応できるようにすると考えているが、平等性や中立性に配慮する必要がある。

Q 介護予防事業の縮小によって介護度が高くなるのが心配になる。市の対策はどうするか。

A 教育は百年の大計と考えている。教育委員会と連携して、諸課題に対し迅速に対応できるようにすると考えているが、平等性や中立性に配慮する必要がある。

教育委員会改正をどう考える 小中一貫校はどうするか



星川 睦子議員

Q 地方教育行政法改正の審議が進められている。教育行政において、首長の権限が強化され、市長の考えが強く反映されることになる。次の各点について問う。

①教育委員会制度が大きく改革されることに對し、市長の見解を伺う。

②文科省は小中一貫校を制度化すると報道されている。当市も、早急に小中一貫校を検討すべきではないか。

③全国学力テストの成績公表はどうするか。

④市長が教育振興施策の大綱を決めることになるが、どのような教育理念をもって大綱をつくるのか。

①教育委員会は百年の大計と考えている。教育委員会と連携して、諸課題に対し迅速に対応できるようにすると考えているが、平等性や中立性に配慮する必要がある。

②文科省は小中一貫校を制度化すると報道されている。当市も、早急に小中一貫校を検討すべきではないか。

③全国学力テストの成績公表はどうするか。

④市長が教育振興施策の大綱を決めることになるが、どのような教育理念をもって大綱をつくるのか。



育理念をもって大綱をつくるのか。

A ①教育は百年の大計と考えている。教育委員会と連携して、諸課題に対し迅速に対応できるようにすると考えているが、平等性や中立性に配慮する必要がある。

②小中一貫校は施設一体型が理想的と考えているが、学校統合が進む中、一体型の施設をつくるのは困難である。今年度から、小中連携

アクションプランに取り組み、当面は連携を中心に進める。③全国平均と県平均に比較して、かなり上回る、やや上回る、おおむね平均、やや下回る、かなり下回るの、5段階の言葉によって学校ごとに公表している。④教育に対する基本方針として、百年の大計としてとらえなければならぬと考えている。地域で育てるという観点から「結」から派生した「絆」を大切にしたい。「結」の精神を子供たちに培ってほしいと考えている。

識しており、検討を進める。

A 一般の高齢者を対象にして行っている運動機能向上事業や認知予防事業への参加をもっとながし、知識と意欲を持ち、自立していきけるよう支援していきたい。

Q 人口流出防止策に居住用の土地や建物を安価で提供する考えはないか。市有地や空き家を解体し、土地利用などできないか。また、雇用創設強化対策はどうか。

A 定住対策は重点事業として取り組んでいて、各事業とも着実に成果が表れてきていると捉えている。現在「宅地取得等助成事業」があるが、他市町の事例を参考に検討したい。「新たな若者向け、子育て世代への分譲住宅地」の必要性は十分認識している。

Q 人口流出防止策に居住用の土地や建物を安価で提供する考えはないか。市有地や空き家を解体し、土地利用などできないか。また、雇用創設強化対策はどうか。

A 定住対策は重点事業として取り組んでいて、各事業とも着実に成果が表れてきていると捉えている。現在「宅地取得等助成事業」があるが、他市町の事例を参考に検討したい。「新たな若者向け、子育て世代への分譲住宅地」の必要性は十分認識している。

Q 人口流出防止策に居住用の土地や建物を安価で提供する考えはないか。市有地や空き家を解体し、土地利用などできないか。また、雇用創設強化対策はどうか。

A 定住対策は重点事業として取り組んでいて、各事業とも着実に成果が表れてきていると捉えている。現在「宅地取得等助成事業」があるが、他市町の事例を参考に検討したい。「新たな若者向け、子育て世代への分譲住宅地」の必要性は十分認識している。

Q 学童保育は時間が長い。生活の場として、よりよい環境となっていないか。定員に対して狭く、指導員も足りない。児童に十分な対応ができないところを改善すべき。

A 児童クラブは4ヶ所開設している。県の指針に基づいて運営しているが、安全性の確保を第一に、基本設備を完備している。提言に従って、もう一度実態を捉え、委託者、学校と協議して、これからの対応を進めていきたい。